



豊見城市

住民主体の支え合い活動

協議体と生活支援コーディネーター

作成：豊見城市第2層生活支援コーディネーター

介護保険制度の改正

団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、医療や介護の需要のさらなる増加が見込まれます。

2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制確立のための取り組みが進められました。

これからは、地域における生活支援、介護予防の取り組みが、より一層重要になってきます。

どうして支え合い活動が必要か

少子高齢化や核家族化、プライバシーの重視などを背景に、家族や地域とのつながりや支え合い機能が低下し、高齢者の孤立化や無縁化が広がっています。

また、公的サービスだけでは対応できない課題が多く発生し、日常生活をするうえで困っている高齢者も増加しており、介護保険制度改正により、今後このような高齢者はさらに増加することが予想されています。

孤立や孤独の問題、日常生活上のゴミ出しや足腰が弱って買物に行くことがとても辛いなど、このような課題に対応できるのは「**住民の支え合い**」です。

協議体と生活支援コーディネーター

豊見城市でも、住民による支え合い活動を支援するため、

協議体を設置し、生活支援コーディネーターを配置しています。

協議体とは？

協議体とは、住民による住民のための市民会議の場です。

住民が、地域における現状を理解し、課題やニーズに対して住民自らが様々なアイデアを出し合い、住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らしていただけるための取り組みを話し合う場です。

- ◆ 第1層協議体・・・豊見城市全体の、主に不足するサービスの創出、担い手の養成・活動する場の確保などをします。
- ◆ 第2層協議体・・・中学校区域で、地域住民の活動を知り、情報を共有し合い、地域の「あったらいいね」を提案したり、自分たちでできることを話し合う場として機能します。

生活支援コーディネーターとは？

生活支援コーディネーターとは、高齢者の生活支援・介護予防の体制づくりを進めるのが仕事です。

既にある住民同士の支え合いを見つけるとともに、高齢者が生活をしていくうえで困っているニーズを見つけ出すのも生活支援コーディネーターの仕事です。

目指す地域像

地域住民が、

どんな状態になっても、

ふれあいの絆の中で自らの能力を最大限に生かしながら、

生きがいをもって主体的に暮らし、

尊厳が保持される。

それでは平成30年度以降、
私たちの暮らしはどのように変わるのでしょうか？

ひとり暮らしのA子さんの場合

78歳女性



- ◆ 5年前に7年間介護した夫が他界し、現在はアパートで独り暮らしをしている。
- ◆ 一人娘は県外で就職し、半年に1回程度しか来ることができない。
- ◆ 3年前からひざを痛め、長時間の歩行やひざを曲げての動作ができない。重いものを持つことができない。ゴミ出しもできず、玄関や廊下にゴミが溜まっている。

ひとり暮らしのA子さんの場合

78歳女性

心配した娘さんが市役所に相談した結果、A子さんは介護認定を受け、要支援1の認定を受けました。



要支援1の認定を受けたA子さんは、介護保険を利用し、ゴミ出しや部屋の掃除、買い物などの支援をホームヘルパーさんに依頼しています。



家に閉じこもりがちになるので、週1回デイサービスを利用している。



平成30年度、介護保険改正により

A子さんの暮らしはどう変わるのでしょうか？



ホームヘルパーやデイサービスが
利用できなくなったら困る！

A子さんの住む地区では協議体を立ち上げ、どのようにすればA子さんのような高齢者の生活を支える仕組みができるか、定期的に話し合いをしています。

地域ミニデイサービスはどんなことをしているのかねえ？



シルバー人材センターなら、有償で家事支援できるよ。

民生委員さんと協力して、見守り隊を作りましょう！

通学する子どもたちから、ゴミ出しボランティアを募集したらどう？

隣の市では、買い物ボランティアを作ったらしいよ。

第2層協議体

【改正後】ひとり暮らしのA子さん

78歳女性



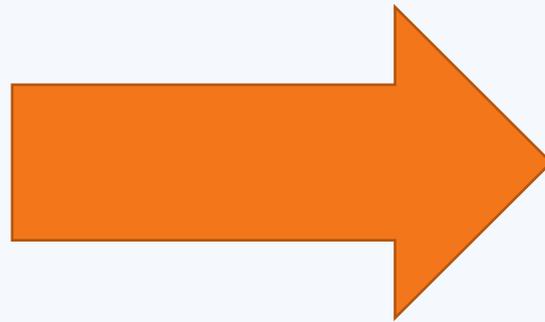
- ★家の掃除は週に2回、有償でシルバー人材センターに依頼することになった！
- ★ゴミ出しは、隣に住む中学生が、通学時に捨ててくれることになった！
- ★隣近所の住民と民生委員が協力をして、見守りのために声かけをすることになった。
- ★週1回の地域ミニデイサービスに参加することになった。
- ★買い物支援については、買い物ボランティアを募集するとともに、市内に移動販売車がないか調べることにした。

買い物支援について調べていくと、A子さんのように買い物に行けなくて困っている高齢者が、A子さんの地区だけでなく、市内にたくさんいることがわかってきました。

第2層の生活支援コーディネーターから、第1層協議体へ、市内には買い物支援を必要としている人が大勢いることを問題提起！



第2層協議体



第1層協議体

第1層の生活支援コーディネーターと協議体で移動商店を市に対して提案。
市から市内にある商店数店舗に打診し、市内数か所で定期的に移動商店を実施。

【改正後】ひとり暮らしのA子さん

78歳女性



◆ A子さんの地域の集会所へも、週に1度移動商店が来ることになりました。

- ① 移動商店の日には、集会所の軒先でユンタク会が開かれるようになり、住民の憩いの場となった。
- ② 集会所に来る、移動豆腐屋さんとも親しくなり、移動商店がない日には直接A子さん宅まで売りにきてくれるようになった。
- ③ 近所に友人ができ、お互いの家を行き来するお茶のみ友達となった。

移動商店のおかげで、地域との接点ができた！

ひとり暮らしのB男さんの場合

73歳男性



- ◆ 3年前に妻を病気で亡くしてから現在まで、自宅でひとり暮らしをしている。
- ◆ 二人の息子は結婚し別々に暮らしているが、仕事で忙しいため月に1回程度しか訪問ができない。
- ◆ 料理が得意で、洗濯や掃除、何でも自分でできる。
- ◆ 体も心も元気！何事も前向きな性格で世話好き。



元気なB男さんが、これからもずっと生き生きとくらししていくためには、どのようにすればいいのでしょうか？

ひとり暮らしのB男さん

73歳男性



★毎朝ウォーキングがてら、登下校の子供たちの交通安全見守り隊として、横断歩道に立つことにしました。

★地域のグランドゴルフサークルがある老人会に入会し、毎週3回の練習に参加するようになった。

日常的な運動で健康を維持！

ひとり暮らしのB男さん

73歳男性



★シルバー人材センターからの斡旋で、毎週月曜日の午後、公園の清掃員として働くことにした。

★両隣の高齢者に声をかけ、電球交換や草刈りなど、助けが必要なときにお手伝いをしている。

気の合う友人ができ、たまにお酒を酌み交わして楽しく過ごしている！

地域には様々な支え合い活動があります

声かけ見守り

身近な相談

居場所づくり

配食サービス

移動支援



支え合い活動
始めてみませんか？

まずは『好きなこと』『できること』から

車が好きな人は・・・

- ・移送サービス
- ・洗車サービス など



パソコンが好きな人は・・・

- ・事務の仕事
- ・広報誌の作成
- ・申請の代行 など

家事が好きな人は・・・

- ・洗濯、掃除
- ・料理
- ・布団干し
- ・電球交換 など



時間がある人は・・・

- ・見守り、安否確認
- ・話し相手、ゴミ捨て
- ・植木の水やり
- ・郵便物の投稿 など